



生命と緑の未来のために Innovation for Life & Nature

2014年9月期第2四半期
決算説明会

2014年5月27日

 **日本農薬株式会社**
<http://www.nichino.co.jp>

説明会次第

- I. 2014年9月期第2四半期実績について
- II. 2014年9月期見通しについて
- III. 研究開発の状況について
- IV. 質疑応答



Ⅰ. 2014年9月第2四半期実績について

2014年9月期第2四半期決算実績

増収増益

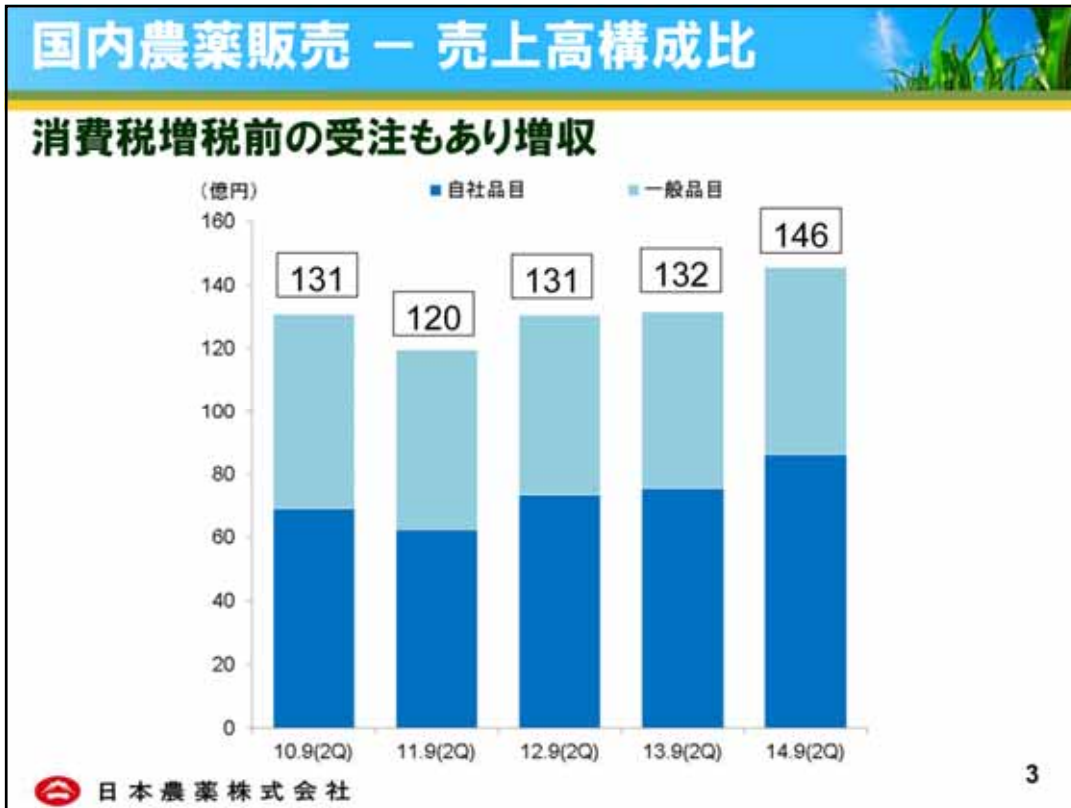
(単位:億円、%)

	14年9月期	13年9月期	前年 同期比	伸び率
	第2四半期 実績	第2四半期 実績		
売上高	351	280	70	25.1
国内農薬販売	146	132	14	10.7
海外農薬販売	133	94	38	40.8
化学品・医薬品他	19	17	2	14.2
ノウハウ技術料	43	27	16	60.3
その他	10	11	△1	△8.1
売上原価	194	159	35	22.0
売上総利益	156	121	35	29.2
販売費及び一般管理費	72	60	12	20.6
営業利益	84	61	23	37.7
経常利益	83	59	25	41.9
四半期純利益	56	39	17	44.0

当第2四半期の売上高は351億円と前年同期比70億円、25.1%の増収であります。

利益面では増収効果に加えノウハウ技術料の増加や為替の円安基調での推移などもあり、営業利益は84億円と、前年同期比23億円、37.7%の増益であります。

経常利益は83億円と前年同期比25億円、41.9%の増益、さらに四半期純利益は56億円と前年同期比17億円、44.0%の増益であります。



上のグラフは、国内農薬販売の売上高構成比の推移を表したものです。

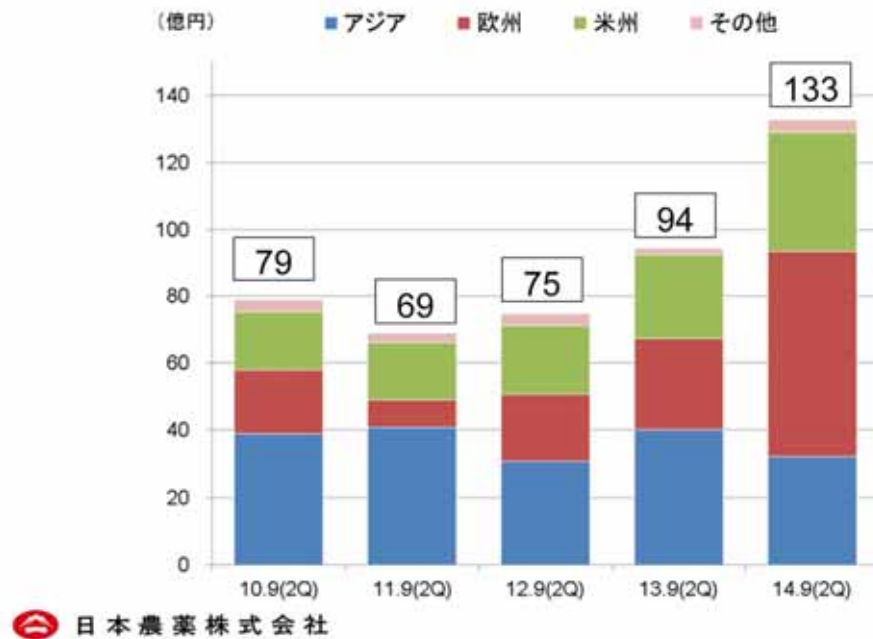
当第2四半期は園芸用殺虫剤「フェニックス」、水稲用殺菌剤「ブイゲット」などの主力自社開発品目の普及拡販に努めるとともに新製品6剤を上市し品目ポートフォリオの拡充を図りました。

また、農薬原体販売では園芸用殺虫剤「コテツ」、「ハチハチ」などの主力品目の当用期に向けた販社への販売が好調に推移しました。

さらに、消費税率引き上げ前の前倒し受注もあり、国内販売全体の売上高は146億円と前年同期比14億円の増収であります。また、自社品比率も59%と前年同期比2%の上昇であります。

海外農薬販売 — 地域別売上高

欧州、米州の売上高が伸長



4

上のグラフは、海外農薬販売の地域別売上高の推移を表したものです。

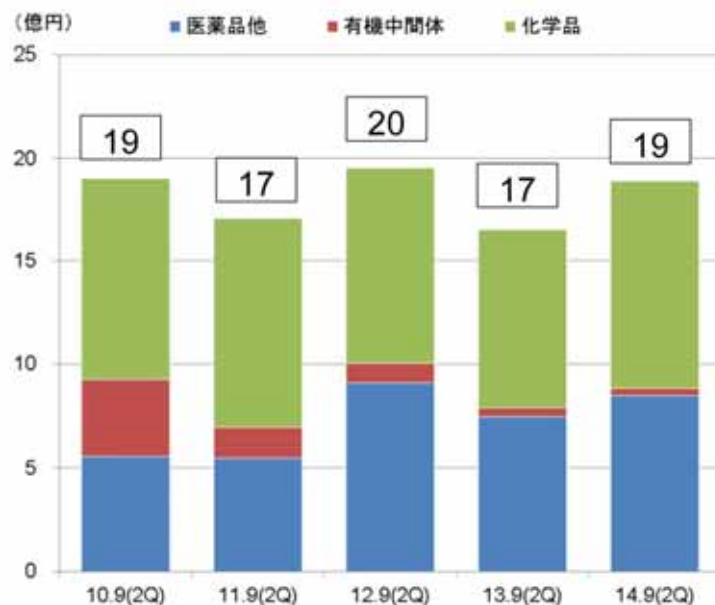
当第2四半期はアジア地域の主要市場である韓国、中国およびインドでの病害虫の小発生や天候不順による過年度の流通在庫などから売上高が伸び悩みました。

その一方で米州ならびに欧州では販売が好調に推移しました。品目別では米国で殺ダニ剤「ダニトロン」が昨年のダニの多発生から荷動きが早まり、売上高が伸長しました。

さらに、為替が円安基調で推移したことなどから、海外販売全体の売上高は133億円と前年同期比38億円の増収であります。

化学品・医薬品他 ― 事業部門別売上高

「ルリコナゾール」の米国、中国での販売開始



日本農薬株式会社

5

上のグラフは、化学品・医薬品他の事業部門別の売上高の推移を表したものです。

当第2四半期は化学品事業ではシロアリ薬剤の出荷が順調に推移しました。

また、医薬品事業では外用抗真菌剤「ルリコナゾール」が昨年9月に中国で、11月に米国でそれぞれ販売の承認を取得し、今期より販売を始め売上高が伸長しました。

これらの結果、化学品・医薬品他の売上高は19億円と前年同期比2億円の増収であります。

成長戦略の進捗状況

1. オルトスルフアムロン(SU系除草剤)の買収

- ・イタリアISEM社より2013年10月に買収
- ・既存の水稻・甘蔗に加え、新規用途開発を展開中
- ・米国、ブラジルに加え、東南アジア、欧州、中近東でも開発を推進

2. アリスタライフサイエンスアグリマート(株)の株式100%譲り受け

- ・アリスタライフサイエンス(株)より2014年1月に譲り受け
- ・(株)アグリマートに社名変更、連結化
- ・当社既存事業との協働でシロアリ薬剤事業を強化

3. 当社農薬の海外製剤生産の開始(米国以外、2014年～)

- ・アジア:マレーシア ACM社
- ・欧州:NEU管理下で英国メーカーに委託

現在、当社グループが推進している中期経営計画「Shift for Growing Global 2015 成長へのシフト」の当第2四半期までの進捗状況についてご説明致します。

一点目として、当社は昨年10月にイタリアのISEM社より除草剤「オルトスルフアムロン」を買収しました。

これは、海外向け除草剤分野の補完・拡充による製品ポートフォリオの充実と海外事業展開のスピードアップを目的とするものであります。

二点目として、本年1月、シロアリ薬剤事業を展開するアリスタライフサイエンスアグリマートの発行済株式の100%を譲り受けて連結子会社化し、アグリマートへと社名変更致しました。

当社は、長年培ってきた農薬技術の応用展開としてシロアリ薬剤の開発普及と販売を30年以上に亘り、行なってきました。

今般の株式譲り受けによりアグリマートとの協働体制を構築し、様々なチャネルへの薬剤供給拡大を目指すとともに、当社の研究開発力を有効活用し新たな製品・サービスを創出したいと考えております。

三点目として、当社農薬の米国以外での海外製剤生産拠点としてマレーシアでは当社持分法適用関連会社であるACM社、欧州では、ニチノーヨーロッパの委託先である英国メーカーを選定し製造を開始しました。



II. 2014年9月期見通しについて

2014年9月期計画(前期比)

増収増益

(単位:億円、%)

	14年9月期	13年9月期		
	計画	実績	前期比	伸び率
売上高	560	476	84	17.6
国内農薬販売	197	201	△4	△1.8
海外農薬販売	260	191	69	36.0
化学品・医薬品他	43	38	5	14.3
ノウハウ技術料	44	28	16	56.3
その他	16	19	△3	△14.8
売上原価	323	272	51	18.9
売上総利益	237	205	32	15.8
販売費及び一般管理費	148	130	18	13.8
営業利益	89	75	14	19.5
経常利益	88	71	17	23.2
当期純利益	58	47	11	23.0

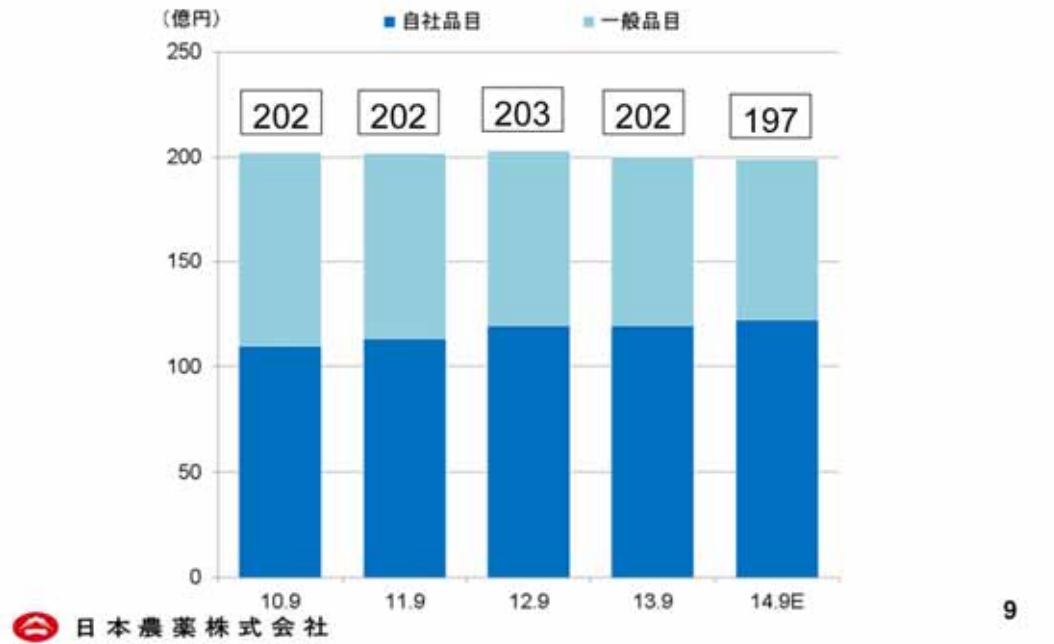
売上高は、海外農薬販売の伸長とノウハウ技術料の増加を主要因に560億円と前期比84億円、17.6%の増収の計画であります。

利益面では、販管費の増加18億円を見込みますが、営業利益は89億円と前期比14億円、19.5%の増益、経常利益は88億円と前期比17億円、23.2%の増益の計画であります。

さらに当期純利益は58億円と前期比11億円、23.0%の増益の計画であります。

国内農薬販売 — 売上高構成比

自社品目の拡販

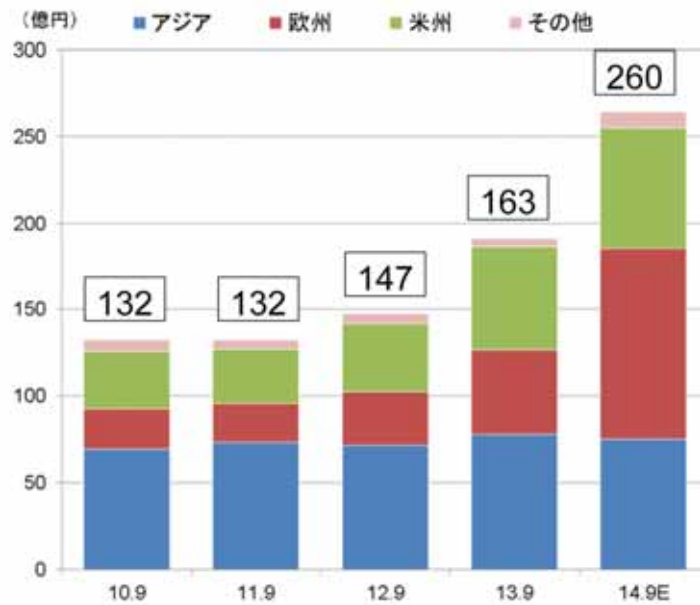


上のグラフは、国内農薬販売の売上高構成比の推移を表したものです。

通期では、上期の消費税率引き上げに伴う前倒し発注が平準化され、減収を見込んでおりますが、「ブイゲット」や「コルト」などの主力自社開発品目の拡販を目指します。

海外農薬販売 — 地域別売上高

欧州、米州の売上高が伸長



日本農薬株式会社

10

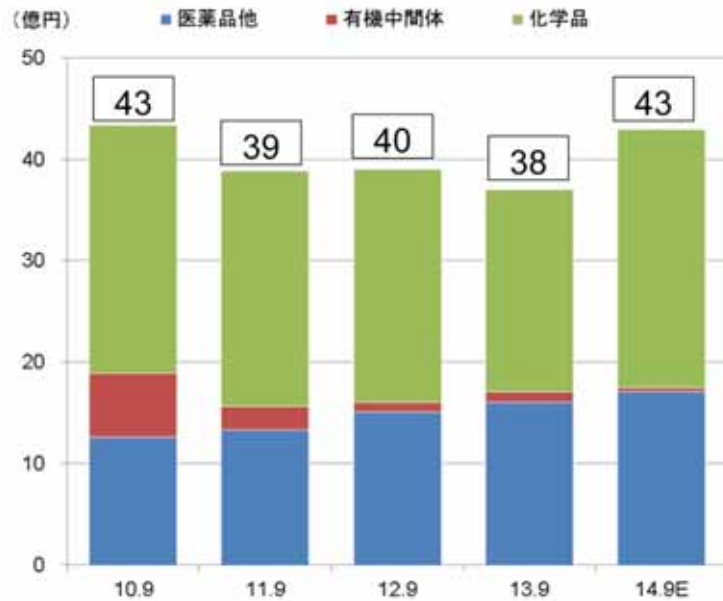
上のグラフは、海外農薬販売の地域別売上高の推移を表したものです。

通期では、欧州への販売が増加する見込であります。

また、ニチノーアメリカの主力品目の拡販を見込み米州での売上高が伸長する計画であります。

化学品・医薬品他 ― 事業部門別売上高

アグリマートの連結子会社化が寄与



上のグラフは、化学品・医薬品他の事業部門別売上高の推移を表したものです。

化学品事業では、先ほどご説明致しましたアグリマートを連結子会社化し、売上高が伸長する計画であります。

株主価値向上に向けた取り組みについて

・事業基盤整備と事業競争力強化により、
収益を改善し、安定的な配当を実施

・投資家の皆さまにとって投資しやすい
環境の整備
- 本年4月1日に単元株式数を変更

・中期経営計画「Shift for Growing Global
2015」により、さらなる成長を成し遂げ、
株主・投資家の皆さまの期待に応える

・グループビジョン達成により株主価値最大化
を目指す

当社の株主価値向上に向けた取り組みについてご説明致します。

当社は、これまで事業基盤の整備と事業競争力の強化によって収益を改善し、安定的な配当を継続的に行なうことにより株主の皆様のご期待に応えてまいりました。

これまでの当社の着実な取り組みが現在の当社の成長基盤を築いてきたものと考えております。

本年4月1日に実施致しました単元株式数の1,000株から100株への変更も投資家の皆様にとって、より投資しやすい環境を整備することが目的であります。

一方で、現在推進しております中期経営計画における成長戦略を着実に実現し、さらなる飛躍を成し遂げ株主・投資家の皆様のご期待に、より近づいていくことも重要な課題であると考えております。

さらに、中長期的には一昨年策定致しましたグループビジョンを達成することにより今後とも株主価値の最大化を目指してまいります。



III. 研究開発の状況について

研究開発力の強化

創薬力強化による新規農薬の創出

- ・殺ダニ剤「ピフルブミド」(商品名:ダニコング)
ダニトロンとの混合剤 商品名「ダブルフェース」も含め2015年上市に向けて開発中
- ・NNF-0721(新規汎用性殺菌剤)
2018年上市に向けて開発中

成長戦略推進のための積極的な品目導入

- ・SU系除草剤「オルトスルファミロン」
- ・汎用性殺菌剤「ピコキシストロビン」
国内品目ポートフォリオ拡充に向け、DuPontより導入
2013年12月登録申請、2016年度上市に向けて開発中

新規自社開発品目である殺ダニ剤「ピフルブミド」、商品名「ダニコング」及び既存自社殺ダニ剤「ダニトロン」との混合剤「ダブルフェース」は、2015年上市に向け当局対応や製品化対応を行なっております。

「ピフルブミド」に続く新規自社開発品目である「NNF-0721」は、水稻、園芸、芝などの汎用性殺菌剤であり、2018年上市を目指して鋭意開発を進めております。

また、成長戦略推進のための品目導入として、既にご紹介しました「オルトスルファミロン」に加え、デュポン社より国内開発権を取得した汎用性殺菌剤「ピコキシストロビン」を昨年12月に登録申請し2016年上市を目指して開発を進めております。

研究開発力の強化

既存自社開発品目の海外展開促進

・汎用性殺虫剤「トルフェンピラド」

2013年12月 米国食用登録取得、販売開始

2014年度 インド登録認可の見込み

2015年度 ブラジル登録認可に向けて開発中

・園芸用殺虫剤「ピリフルキナゾン」

2012年12月 米国非食用温室内登録取得

2016年度 米国食用登録認可に向けて開発中

汎用性殺虫剤「トルフェンピラド」は、昨年12月に米国で食用登録を取得し、今期から販売を開始しました。

さらに、2014年度にはインドでの登録認可を見込み、世界第1位の市場であるブラジルでは2015年度の登録認可に向けて開発中であります。

また、園芸用殺虫剤「ピリフルキナゾン」は、米国で2012年非食用温室内登録を取得し、2016年度の食用登録に向けて鋭意開発中であります。

業績予想・事業計画に関する注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。